

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25463541

研究課題名(和文) 訪問看護における臨床と教育機関の連携融合教育 学習プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the cooperation integration learning program of clinical and educational facilities in home care nursing.

研究代表者

本田 彰子 (HONDA, AKIKO)

東京医科歯科大学・保健衛生学研究科・教授

研究者番号：90229253

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、訪問看護師の継続学習と在宅看護学実習における連携融合教育-学習プログラムを開発し、訪問看護事業所と看護基礎教育機関とのユニフィケーションを推進することを目的に実施した。

前半では、連携融合教育-学習プログラムに向けて、訪問看護事業所管理者、在宅看護学担当教員に対する学習支援の実態とニーズの質問紙調査、ヒアリング調査を実施した。後半は、連携融合教育-学習プログラムのモデルにつながる研究交流集会、ワークショップを企画実施した。

研究成果の概要(英文)：This research aimed at promoting the unification of a visiting nursing station and a nursing basic education organization further for the purpose of developing the cooperation integration educational-learning program in a visit nurse's continuous learning and clinical practice of home health care.

In the first half, towards the cooperation integration educational-learning program, the question paper investigation of the actual condition and needs of learning support and hearing investigation to administrator of the visiting nursing station and the teacher specializing home health care were conducted, and the composition proposal of the cooperation integration educational-learning program was proposed.

The research exchange meeting and workshop about cooperation integration educational-learning program practical use were planned and carried out the second half.

研究分野：在宅看護学

キーワード：訪問看護 人材育成 在宅看護 看護基礎教育 学習支援プログラム

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 訪問看護の人材育成：国内の訪問看護師の教育の現状については、訪問看護事業所管理者対象に研修参加等学習の実際や教育ニーズ、訪問看護師の教育背景やそれまでの臨床経験に関する調査をしているものがある。また、看護基礎教育での在宅看護に関連するカリキュラム構築のためコアとなる教育内容を見出すべく、教育者や実践者に対する調査もある。しかし、訪問看護師の専門的教育をどのように進めるかということに関しては、専門看護師・認定看護師教育が実施されているが、大学、大学院等教育機関におけるものとなっており、実践の場での教育-学習の改革にはつながっていない。各都道府県が実施している訪問看護師養成講習会は履修形態や受講者の就業等による理由で受講生が減っている現状があり、訪問看護師育成には大きな課題があることがわかっている。

(2) 訪問看護の学習方法：このような課題を解決すべく、医療処置等が必要な在宅療養者の訪問看護充実を図るための医療処置プロトコルの開発・活用の研究<sup>1)</sup>、高齢訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの開発・試行の研究<sup>2)</sup>、およびOJTシートを活用した訪問看護師個別学習プログラムの開発・試行の研究<sup>3)</sup>がなされている。これらの研究は、学習教材の開発が中心で、学習そのものについては、訪問看護事業所組織、管理者、および学習する訪問看護師個人の努力に依るところが大きく、学習方法自体を効率的、効果的に実施するところ、すなわち仕組みを提案するものには至っていない。

## 2. 研究の目的

本研究は、訪問看護師の継続学習と在宅看護学実践的学習における連携融合教育学習プログラムを構築することで、訪問看護事業所と看護基礎教育機関とのユニフィケーションを推進することを目的とする。

訪問看護師の実践現場での継続学習は、学習資源や機会が限られている現状にあるが、実践体験からの学びを表現すること、臨床場面での説明・指導能力をつけることが、自らの学習を促進させる On the job training、経験からの学習として有効と考える。訪問看護師の説明・指導能力向上等の在宅看護学実習における実践的学習と融合させること、すなわち、教育機関と訪問看護事業所が共同して教育-学習に当たることにより、現行教育と基礎教育の双方の効果が期待される。本研究はそのための教育-学習モデルを創出し、試行、評価するものである。

## 3. 研究の方法

### (1) プログラム案作成のためのニーズ調査

「在宅看護学実習の受け入れによる訪問看護師への教育的効果」質問紙調査

対象： 全国看護系大学在宅看護学担当教員  
担当教員より紹介を受けた実習等で  
連携協力関係にある訪問看護ステーション管理者。

方法：在宅看護学実習を受け入れるようになって見られた訪問看護師の変化を、学習意欲・実践力・指導力の視点でとらえ評価する質問紙。郵送留め置き法。

内容： 学習意欲 7 項目、 実践力 7 項目、  
指導力 6 項目について、「見られた変化」「期待する変化」の 2 視点で評価。各項目について自由記載欄を設けた。

### (2) プログラム実施に向けた実態意向調査

「在宅看護学実習の受け入れによる訪問看護師への教育的効果」インタビュー調査

対象：質問紙調査に同意署名した訪問看護ステーション管理者。質問紙調査において在宅看護学実習受入校が複数であり、また受入期間が長いステーションの管理者。

方法：調査者2名による個別インタビュー。

内容：インタビュー調査ガイドライン作成。

実習受け入れ体制と看護師の学習、  
教育機関との関係と看護師の学習、  
事業所内継続学習支援者、事業所  
独自の個別学習計画

\*倫理的配慮：質問紙調査、および面接調査  
については、東京医科歯科大学医学部倫  
理審査委員会の承認を得て実施した。研  
究目的や方法、個人情報取り扱い、参  
加の自由等について送付文書で説明し、  
同意書を得た。

(3) 訪問看護及び教育担当者双方の共通理解  
「在宅看護学実習受け入れと訪問看護師の人  
材育成について」共通理解のための交流集  
会・ワークショップの実施

対象： 交流集会 在宅看護・看護教育に関  
連する看護系学会参加者  
ワークショップ 首都圏の在宅看護  
担当教員・訪問看護師

方法：本研究の主旨、調査結果概要の説明と  
テーマに関する話題提供、ディスカッ  
ション。

交流集会・ワークショップ終了後の意  
見・感想を含むアンケート調査。

#### 4. 研究成果

(1) プログラム案作成のためのニーズ調査  
「在宅看護学実習の受け入れによる訪問看護  
師への教育的効果」質問紙調査

【在宅看護学担当教員対象調査】

対象概要：看護系大学ホームページの担当  
科目内容より在宅看護学を専門としている教  
員36名を抽出。調査票を郵送にて配布、11  
名より回答を得た。

結果概要：[学習意欲]「他者に疑問を聞く」  
変化がみられているが、「文献を読む」ことに  
期待が高かった。[実践力]「ケアへの積極性」

「ディスカッション参加」に変化がみられて  
いたが、「利用者からのケアの評価」に期待が  
高かった。[指導力]「学生への的確な説明」  
に変化がみられていたが、「他職種への的確な  
説明」に期待が高かった。

考察・結論：在宅看護実習での指導に関し  
ては、カンファレンスでの指導的意見に教員  
は注目している。多領域の実習とは異なり、  
ケア実施場面に訪問看護師とともに指導に当  
たることなく、カンファレンスが唯一の直  
接指導を見る機会であることが影響している  
が、その中での変化を教員は的確にとらえて  
いることがわかった。訪問看護師自身の学び  
については、関心が高いわけではないが、研  
究や事例検討などへの関わりを通して、訪問  
看護師の実践力向上へ関わることを望んでい  
た。

【訪問看護ステーション管理者対象調査】

対象概要：在宅看護学担当教員36名それ  
ぞれに5部の訪問看護ステーション管理者用  
質問紙等一式を託し、紹介先へ配布。回答者  
は14名、管理者経験平均9.2年、事業所勤  
務看護師常勤換算平均6.9名。

結果概要：[学習意欲]「他者に疑問を聞く」  
変化がみられているが、「文献を読む」「研修  
への参加」に期待が高かった。[実践力]「ケ  
アへの積極性」に変化が見られたが、「記録や  
計画の充実」に期待が高かった。[指導力]学  
生への的確な説明」に変化が見られたが、「患  
者家族への的確な説明」「自身をモデルとし  
ての提示」「ステーション内現任教育への関心」  
に期待が高かった。

考察・結論：管理者は研修等受講や書籍か  
らの学習などに学習意欲の表れを期待してい  
た。それは、管理者が訪問看護師の業務を共  
にすることで、個々の教育に責任を持つ立場に  
あることが影響していると考えられる結果と  
なっていた。また、実践力に対しては、訪問  
看護師一人一人が患者や家族に対してケアの  
責任を持ち、他職種にも適切に伝えることが

求められているため、説明力を付けることを重視していると考えられる。加えて、学生に対するモデルとなることや事業所内での主体的な教育活動を期待していることから、看護師それぞれの経験を活かしながら、事業所内での学習活動に取り組みよう支援することが必要であると考え。

#### (2) プログラム実施に向けた実態意向調査

「在宅看護学実習の受け入れによる訪問看護師への教育的効果」インタビュー調査

対象概要：訪問看護ステーション管理者経験者 4 名（秋田・群馬・神奈川・高知）

訪問看護師の変化の特徴：在宅看護学実習受け入れが訪問看護師に与えている影響について管理者の語りを質的機能的に分析した。104 のコードから 24 のサブカテゴリ、4 のカテゴリが得られた。カテゴリは【利用者へのよい影響と教育機関との協働】学生の社会性の育成と専門的な学習【スタッフの実践力と教育力の向上】スタッフ育成の充実と労務管理の負担感】であった。

考察・結論：得られた 4 カテゴリから、訪問看護ステーション管理者は臨床重視の志向性と教育管理の志向性の双方の視点で実習受け入れを捉えていることがわかった。また、教育的なかわりを重視しているサブカテゴリが多く、結果的には地域で療養者を支える看護を担う若手を育てることがその根底にあると考えられる。そのため、看護基礎教育の実習受け入れは、訪問看護が楽しいものであり、やりがいのある看護であることを早期から理解してもらうために、必要なアピールの場になっていると言える。

#### (3) 訪問看護及び教育担当者双方の共通理解

「在宅看護学実習受け入れと訪問看護師の人材育成について」共通理解のための交流会・ワークショップの実施

交流会（第 23 回日本看護学教育学会、2013.8.8 於仙台）“在宅看護における現認教

育内容の体系化 - 個別学習支援プログラム OJT シートの活用と実際 - ”

内容：1)訪問看護師 OJT ガイドブックの説明、2)5-6 人のグループワーク、3)話し合ったことの共有(発表)

交流会（第 20 回日本在宅ケア学会学術集会、2015.7.18 於東京）“在宅看護を担う人材の育成 - 訪問看護ステーションと看護学生の相乗効果 - ”

内容：1) 研究概要の説明。2) 訪問看護ステーション側と教育側より話題提供。3)ディスカッション。

交流会（第 25 回日本看護学教育学会学術集会 2015.8.19 於徳島）受け入れてよかったといわれる会いたく看護学実習とするために - スタッフ育成・学生指導の双方の教育効果 - ”

内容：1) 研究概要の説明。2) 訪問看護ステーション側と教育側より話題提供。3)ディスカッション。

ワークショップ(2015.5.2 於東京都 東京医科歯科大学)訪問看護ステーションと教育機関のコラボレーションの推進”

内容：1)実習場面での OJT ガイドブックの活用。2)フィッシュボール - 訪問看護師の実習指導 - 。3)ディスカッション。

#### (4) 総括

本研究は、訪問看護師の現任教育と在宅看護学実習での学生の学びを融合させた教育学習プログラム開発を目的とし、実態調査とモデル事業を行うことを目指して取り組んだ。研究分担者、および研究協力者はこれまで在宅看護教育研究会として、個別学習プログラム「訪問看護師 OJT ガイドブック」を作成し、訪問看護師の現任教育に活用させるべく活動を続けてきた。このガイドブックは今回モデル事業に用いることができ、実際これまで試用経験もあることから、訪問看護師教育や在宅看護学実習に熱心に取り組んでいる

方々と共に、この実態調査の結果と合わせて、OJT ガイドブックの活用の見通し、訪問看護師育成の取り組み、在宅看護学実習における学生指導名などの意見交換を行うこととし、結果的に、実践家及び教育者より多くの示唆を得ることができた。

今回の研究のなかで、訪問看護師の現任教育と看護学生が在宅看護学実習で学ぶべき事柄には、看護の対象者へのケア提供だけでなく、ともに地域で多様な対象者にケア提供する他職種との連携協働が重要であるとわかった。今後、地域包括ケアの中で看護職として期待される能力は、チーム医療や他職種との連携の能力であり、そのために求められるコミュニケーションや広い視野での物事をとらえる力であると考え。訪問看護の質向上を目指し、重点的に学びを深める必要のある事項を取り上げた地域包括ケアの時代に対応できる人材育成を続けて検討していきたい。

#### <引用文献>

- 1) 川村佐和子監修、数間恵子・川越博美編集：在宅療養支援のための医療処置管理看護プロトコル 第2版、看護協会出版会、2010.
- 2) 山本則子他：高齢者訪問看護の質指標開発の検討：全国の訪問看護ステーションで働く看護師による自己評価、日本看護科学会誌 28(2)：37-45、2008.
- 3) 在宅看護教育研究会（日本訪問看護財団）編：訪問看護師 OJT ガイドブック.日本訪問看護財団、2010.

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

本田彰子、より良い“在宅看護実習”につながる取り組み 在宅看護教育研究会の取り組みと在宅看護・訪問看護の学び、コミュニティケア、査読無、17：106-109、2015.〔学会発表〕(計4件)

〔学会発表〕(計4件)

栗本一美他：受け入れてよかったといわれる在宅看護学実習とするために - スタッフ育成・学生指導の双方の教育効果 -、第25回看護学教育学会学術集会（徳島市、アクティ徳島）2015.8.

本田彰子他、管理者が捉えた在宅看護学実習受け入れによる訪問看護師への教育的影響、第28回日本看護福祉学会全国学術大会（北九州市、産業医科大学）2015.7.

本田彰子他、在宅看護を担う人材の育成 - 訪問看護ステーションと看護学生の相乗効果 -、第20回日本在宅ケア学会学術集会（東京都、学術総合センター一橋講堂）2015.7.

本田彰子他、在宅看護における現任教育内容の体系化 - 個別学習支援プログラム OJT シートの活用と実際、第23回看護学教育学会学術集会（仙台市、仙台国際センター）2013.8..

〔図書〕(計1件)

在宅看護教育研究会（本田彰子、正野逸子、炭谷靖子、菊池和子、荒木晴美、赤沼智子、王麗華、栗本一美、平山香代子、上野まり、土平俊子）：訪問看護師 OJT ガイドブック第3版、62p、公益財団法人 日本訪問看護財団、2015..

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

本田 彰子 (HONDA Akiko)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授

研究者番号：90229253

##### (2) 研究分担者

正野 逸子 (SHONO Itsuko)

産業医科大学・産業保健学部・教授

研究者番号：80280254

炭谷 靖子 (SUMITANI Yasuko)

富山福祉短期大学・看護学科・教授

研究者番号：30345574

愛宕・所長

荒木 晴美 (ARAKI Harumi)  
富山福祉短期大学・看護学科・教授  
研究者番号：80456368

赤沼 智子 (AKANUMA Tomoko)  
千葉大学・大学院看護学研究科・講師  
研究者番号：10344970

栗本 一美 (KURIMOTO Kazumi)  
新見公立大学・看護学・准教授  
研究者番号：20290512

菊池 和子 (KIKUCHI Kazuko)  
岩手県立大学・看護学部・教授  
研究者番号：10305253

王 麗華 (OH Reika)  
国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授  
研究者番号：20438774

### (3) 研究協力者

上野 まり (UENO Mari)  
公益財団法人 日本訪問看護財団・事業部長

平山 香代子 (HIRAYAMA Kayoko)  
亀田医療大学・看護学部・准教授

土平 俊子 (TSUCHIHIRA Toshiko)  
元了徳寺大学・看護学部・教授

川上 理子 (KAWAKAMI Michiko)  
高知県立大学・看護学部・准教授

藤本 奈緒子 (FUJIMOTO Naoko)  
北九州市立看護専門学校・専任教員

安岡しずか (YASUOKA Shizuka)  
医療法人新松田会 訪問看護ステーション